

青森市埋蔵文化財調査報告書 第129集

国史跡浪岡城跡

環境整備報告書Ⅳ

令和3年度

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書 第129集

国史跡浪岡城跡

環境整備報告書Ⅳ

令和3年度

青森市教育委員会



史跡浪岡城跡整備状況1〔北館〕(N→)



史跡浪岡城跡整備状況2〔新館〕(N→)

例 言

1. 本書は、国の補助金交付を受けて平成21～令和3年度に実施した史跡浪岡城跡環境整備事業の成果を収録したものである。なお、平成20～26年度に国の補助金交付を受けて実施した史跡浪岡城跡新館地区の公有化の情報についても掲載した。
2. 事業の実施にあたっては、文化庁及び青森県教育庁文化財保護課の指導・助言を受けた。
3. 本書刊行以前の事業内容及び基本構想・基本計画については、以下にまとめられている。
浪岡城跡環境整備委員会・浪岡町・浪岡町教育委員会 1984『史跡浪岡城跡環境整備基本構想』
浪岡町教育委員会 1989『史跡浪岡城跡環境整備報告書Ⅰ』
浪岡町教育委員会 1991『史跡浪岡城跡環境整備報告書Ⅱ』
浪岡町教育委員会 2001「史跡浪岡城跡（新館）保存管理計画書」『平成12年度浪岡町文化財紀要Ⅰ』
浪岡町教育委員会 2005『史跡浪岡城跡環境整備報告書Ⅲ』
4. 本書の作成及び編集は、青森市教育委員会が行い、木村淳一が担当した。
5. 挿図の縮尺は、各図にスケールを付した。なお、写真図版の縮尺は、統一を図っていない。
6. 図版番号及び表番号並びに写真番号は、「第○図」、「第○表」、「写真○」とし、順番に通し番号を付した。
7. 原図・データ等については、一括して青森市教育委員会が保管している。

例言
目次

第Ⅰ章 事業実施の概要	1
第1節 史跡浪岡城跡の概要	1
1. 位置とアクセス	1
2. 指定状況	2
3. 新館地区の公有化状況	2
第2節 事業の実施体制・概要	3
1. 事務局体制	3
2. 事業概要	5
第3節 年度別整備工事等費用	5
第Ⅱ章 史跡整備の設計・施工内容	9
第1節 本報告以前の施工内容	9
1. 昭和62・63年度（環境整備報告書Ⅰ）	9
2. 平成元・2年度（環境整備報告書Ⅱ）	9
3. 平成3～9年度（環境整備報告書Ⅲ）	9
第2節 平成21～令和3年度の施工内容	10
1. 平成21年度	10
2. 平成22年度	13
3. 平成23年度	15
4. 平成24年度	17
5. 平成25年度	19
6. 平成26年度	23
7. 平成27年度	26
8. 平成28年度	29
9. 平成29年度	32
10. 平成30年度	35
11. 令和元年度	37
12. 令和2年度	39
13. 令和3年度	41
報告書抄録、引用・参考文献	45
既刊埋蔵文化財関係報告書一覧	

第1章 事業実施の概要

第1節 史跡浪岡城跡の概要

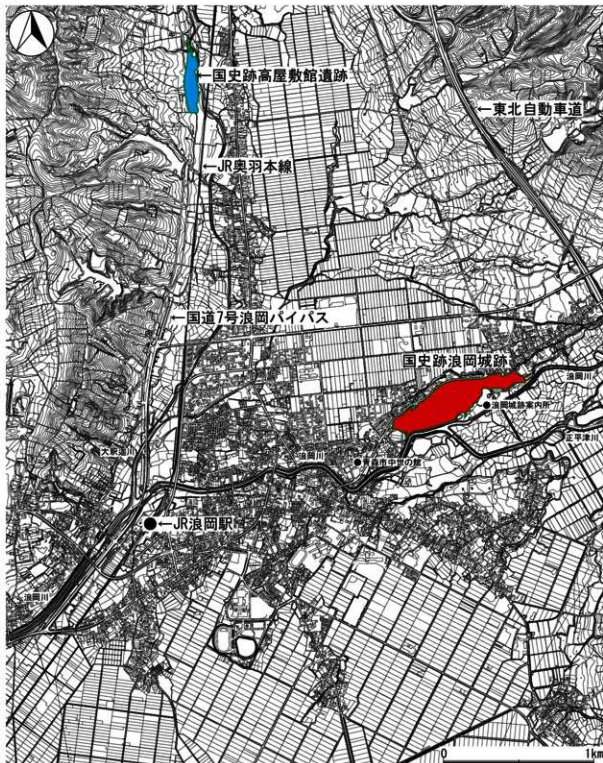
1. 位置とアクセス

国史跡浪岡城跡は、青森市浪岡地区に所在しており、内館・北館・西館・猿楽館・東館・檢校館・新館・無名の館の8つの館（曲輪）で構成されている。

浪岡地区は、平成17年4月に旧青森市と新設合併した旧南津軽郡浪岡町の行政区域内に相当する。市町村

合併により一つの市となったものの、①奥羽山脈から延びる大釈迦丘陵・梵珠山系を境に分水嶺が異なること、②鎌倉時代以降郡制が布かれた時点で、旧浪岡町（浪岡地区）は津軽山辺郡に含められたが、旧青森市は外浜の領域であったことなど、二つの地区は、地理的にも歴史的にも大きく異なる背景がある。

浪岡城跡は、東側から傾斜する扇状地の先端に位置し、浪岡川右岸の河岸段丘上標高36～40mに立



第1図 史跡浪岡城跡位置図

地する。段丘の一段下の浪岡川河床とは比高差が5～6mほどある。浪岡川は、内館の南側の地点で正平津川と合流している。

史跡の北側を市道浅井野線（旧主要地方道青森浪岡線）が走っており、沿道には住宅等が並び、青森空港や南側の黒石市方面へアクセスに利用されている。また、東館と新館の間には市道中野線があり、生活道路として利用されている。

J R奥羽本線浪岡駅から浪岡城跡案内所までの距離は、約2.9km（車で約4分）である。

2. 指定状況

国の史跡指定は、青森県内で最も古い昭和15年2月10日である。（以下原文ママ）

文部省告示第六十四号

史蹟名勝天然記念物保存法第一条二依り左ノ通指定ス
昭和十五年二月十日

浪岡城址

所在地

青森県南津軽郡浪岡村大字浪岡字五所
同 字林本
同 大字五本松字松本

指定地積

民有二一四畓 十町四段三畓歩
右地域内二介在スル道路敷及水路敷

説明

浪岡川ノ右岸二アリ 北畠氏ノ裔ト伝フル浪岡氏
天正六年ノ時迄居城セル処ナリ 城構ハ河岸台地ヲ
利用セル平城ニ属シ内館、西館、北館、東館、猿
乗館ハ各濠ヲ繞ラシテ城ノ主要部分ヲナシ更ニ西館
ノ西二檢校館、東館ノ東二新館アリ 内館ハ現今
行居公園トシテ櫻樹ヲ植ウ 有栖川宮徳仁親王ノ
御染筆ニ北畠城跡ノ碑アリ

指定ノ事由

保存要目史蹟ノ部第四二依ル

保存ノ要件

一、土塁等ノ破壊ヲ為サザルコト
一、樹木ノ伐採及栽植ヲ為サザルコト

（※ 別記は省略）

3. 新館地区の公有化状況

浪岡城跡を構成する8つの館のうち、新館については、昭和59年度に策定された基本構想の時点では、「現状維持地区」とし、居住している住民の生活優先の考え方を重視し、公有化の対象外としていた（浪岡城跡環境整備委員会ほか1984）。平成に入り、既存のガソリンスタンドが改築される計画が起こった際に、その地点を公有化（平成10年度）し、新館地区の取り扱いについて再検討の必要性が生じた。平成11・12年度に新館保存管理計画策定委員会によって検討された答申書が平成12年3月30日付けで浪岡町に

所在地	総地積 (㎡)	備考	年度
浪岡大字五本松字松本35-1	172.00		H20
浪岡大字五本松字松本49	258.00		H20
浪岡大字五本松字松本27-2	119.30	墓地（旧浪岡町有地）	
浪岡大字五本松字松本28-2	192.06	墓地（旧浪岡町有地）	
浪岡大字五本松字松本27-3	2,790.57		H21
浪岡大字五本松字松本29-3	1,332.83		H21
浪岡大字五本松字松本31-1	1,150.70		H21
浪岡大字五本松字松本27-1	66.00	書附	
浪岡大字五本松字松本29-2	168.03	書附	
浪岡大字五本松字松本37	1,533.39		H22
浪岡大字五本松字松本38	747.84		H22
浪岡大字五本松字松本37-2	1,177.26		H22
浪岡大字五本松字松本37-3	139.97		H22
浪岡大字浪岡字五所153-3	63.46		H22
浪岡大字五本松字松本28-3	630.97		H22
浪岡大字五本松字松本28-1	331.89	書附	
浪岡大字五本松字松本36-2	779.19		H23
浪岡大字五本松字松本37-1	68.56		H23
浪岡大字五本松字松本32-1	494.07		H23
浪岡大字五本松字松本50	1,477.18		H23
浪岡大字五本松字松本32-2	402.13		H24
浪岡大字五本松字松本33-6	311.60		H24
浪岡大字五本松字松本35-3	467.00		H24
浪岡大字五本松字松本32-3	327.38		H24
浪岡大字五本松字松本33-7	244.87		H24
浪岡大字五本松字松本35-4	574.29		H24
浪岡大字五本松字松本33-2	335.41		H25
浪岡大字五本松字松本33-10	372.84		H25
浪岡大字五本松字松本34-1	668.64		H25
浪岡大字五本松字松本33-1	205.07		H26
浪岡大字五本松字松本33-8	367.24		H26
浪岡大字五本松字松本33-9	916.95		H26
浪岡大字五本松字松本34-2	437.35		H26
浪岡大字五本松字松本37-4	833.45		H10
公有化小計	20,157.49		
浪岡大字五本松字松本26	1,138.97	未取得地	
浪岡大字五本松字松本26-1	297.00	未取得地	
合計	21,593.46		

第1表 史跡浪岡城跡新館地区面積

年度	面積 (㎡)	公有化対象地	事業費 (円)	補助額 (円)	一般財源 (円)	備考
H20	430.00	青森市浪岡大字五本松字松本35-11E1-1	4,000,000	3,200,000	800,000	立木補償等
H21	5,274.10	青森市浪岡大字五本松字松本27-31E1-2	48,940,600	39,152,000	9,788,600	立木補償
H22	4,292.89	青森市浪岡大字五本松字松本371E1-3	115,702,000	92,561,000	23,141,000	家屋移転・立木補償等
H23	2,819.89	青森市浪岡大字五本松字松本36-21E1-3	50,756,000	40,604,000	10,152,000	家屋移転・立木補償等
H24	2,327.27	青森市浪岡大字五本松字松本32-21E1-7	94,665,782	75,732,000	18,933,782	家屋移転等
H25	1,376.89	青森市浪岡大字五本松字松本33-21E1-2	90,363,436	71,226,000	19,137,436	家屋移転等
H26	1,928.61	青森市浪岡大字五本松字松本33-91E1-3	39,720,734	47,776,000	11,944,734	家屋移転等
計	18,446.76		464,148,552	370,251,000	93,897,552	

第2表 史跡浪岡城跡新館地区公有化事業費



第2図 史跡浪岡城跡新館地区公有化状況

提出され、翌平成13年3月に「史跡浪岡城跡（新館）保存管理計画」が浪岡町により策定された。〔※内容は平成13年3月刊行の『平成12年度浪岡町文化財紀要1』（浪岡町教育委員会2001）に所収。〕

新館地区の公有化については、同保存管理計画に基づき、平成20年度から平成26年度（一部繰越で平成27年度中に事業終了）まで、国の補助金の交付を受け18,446.76㎡の公有化を実施した。それ以前の公有化及び寄附の地点を加えた合計面積は、新館地区対象（21,593.46㎡）の93.3%にあたる20,157.49㎡である。

第2節 事業の実施体制・概要

1. 事務局体制

平成21年度

教育長	月永	良彦
教育部長	小林	順一
教育次長	今村	貴宏
文化財課長	遠藤	正夫
主幹	上野	富士子
主査	工藤	幸子
＃	工藤	雅仁
文化財主査	木村	淳一
＃	小野	貴之
＃	児玉	大成

文化財主事	設楽	政健
主事	高石	知世
＃	吹田	夕貴
＃	對馬	広将（担当）

平成22年度

教育長	月永	良彦
教育部長	小林	順一
理事兼教育次長	小野寺	晃
文化財課長	遠藤	正夫
主幹	上野	富士子
主査	高石	知世
文化財主査	木村	淳一
＃	小野	貴之
＃	児玉	大成
＃	設楽	政健
主事	吹田	夕貴
＃	對馬	広将（担当）

平成23年度

教育長	月永	良彦
教育部長	小野寺	晃
教育次長	金澤	保
文化財課長	吉田	亘
主幹	木村	浩一（担当）
＃	川村	範規
主査	齊藤	寛和
文化財主査	木村	淳一

	文化財主査	小野 貴之	主 事	雪田 幸誠
	"	児玉 大成	"	笹田 貴子
	"	設楽 政健	平成27年度	
	主 事	吹田 夕貴	教育 長	月永 良彦
	"	中村 健祐	教育 部長	成田 聖明
	"	三上 貴子	理 事	横山 克広
平成24年度			文化財課長	白取 慎也
	教育 長	月永 良彦	主 幹	伊丸岡 裕之
	教育 部長	小野寺 晃	"	児玉 大成
	理 事	工藤 壽彦	主 査	齊藤 寛和
	教育次長	金澤 保	"	澤谷 結美子
	文化財課長	吉田 亘	"	辻村 泰成
	主 幹	木村 浩一 (担当)	文化財主査	木村 淳一 (担当)
	"	川村 範規	"	小野 貴之
	主 査	齊藤 寛和	"	設楽 政健
	文化財主査	木村 淳一	主 事	雪田 幸誠
	"	小野 貴之	"	里村 真吾
	"	児玉 大成	平成28年度	
	"	設楽 政健	教育長職務執行者	(~H28.6.2) 佐藤 克剛
	主 事	中村 健祐	教育 長	成田 一二三
	"	三上 貴子	教育 部長	石澤 幸造
平成25年度			理 事	横山 克広
	教育 長	月永 良彦	文化財課長	渡邊 薫
	教育 部長	福井 正樹	主 幹	工藤 一天
	理 事	工藤 壽彦	"	児玉 大成
	教育次長兼文化財課長	成田 聖明	主 査	工藤 洋樹
	文化財課長	(~H26.2.7) 吉田 亘	"	澤谷 結美子
	主 幹	木村 浩一 (担当)	"	辻村 泰成
	"	川村 範規	"	里村 真吾
	主 査	齊藤 寛和	文化財主査	木村 淳一 (担当)
	"	澤谷 結美子	"	小野 貴之
	文化財主査	木村 淳一	"	設楽 政健
	"	小野 貴之	主 事	須田 祐未子
	"	児玉 大成	平成29年度	
	"	設楽 政健 (担当)	教育 長	成田 一二三
	主 事	中村 健祐	教育 部長	横山 克広
	"	三上 貴子	理 事	工藤 裕司
平成26年度			文化財課長	渡邊 薫
	教育 長	月永 良彦	主 幹	工藤 一天
	教育 部長	福井 正樹	"	児玉 大成
	理 事	成田 聖明	主 査	田中 美奈子
	文化財課長	白取 慎也	"	工藤 洋樹
	副 参 事	木村 浩一 (担当)	"	辻村 泰成
	主 幹	塚野端 活昭	"	里村 真吾
	主 査	齊藤 寛和	文化財主査	木村 淳一 (担当)
	"	澤谷 結美子	"	小野 貴之
	文化財主査	木村 淳一 (担当)	"	設楽 政健
	"	小野 貴之	主 事	須田 祐未子
	"	児玉 大成	平成30年度	
	"	設楽 政健	教育 長	成田 一二三

教育部長	工藤 裕司
理事	佐々木 淳
参事兼文化財課長	葛西 俊一
主 幹	工藤 一天
”	児玉 大成
主 査	田中 美奈子
”	工藤 洋樹
”	辻村 泰成
”	里村 真吾
文化財主査	木村 淳一 (担当)
”	小野 貴之
”	設楽 政健
主 事	工藤 耕治
令和元年度	
教 育 長	成田 一二三
教育部長	工藤 裕司
理事	佐々木 淳
参事・文化財課長	葛西 俊一
主 幹	木下 優
”	児玉 大成
主 査	工藤 洋樹
”	里村 真吾
文化財主査	木村 淳一 (担当)
”	小野 貴之
”	設楽 政健
主 事	長崎 泰幸
”	工藤 耕治
令和2年度	
教 育 長	成田 一二三
教育部長	工藤 裕司
教育次長	奥崎 文昭
参事・文化財課長	葛西 俊一
主 幹	木下 優
”	児玉 大成
主 査	成田 裕治
”	工藤 洋樹
”	里村 真吾
文化財主査	木村 淳一 (担当)
”	小野 貴之
”	設楽 政健
主 事	長崎 泰幸
令和3年度	
教 育 長	成田 一二三
教育部長	小野 正貴
教育次長	大久保 綾子
参事・文化財課長	葛西 俊一
主 幹	児玉 大成
”	山内 秀範
主 査	工藤 洋樹
文化財主査	木村 淳一 (担当)

文化財主査 設楽 政健
主 事 長崎 泰幸

2. 事業概要

本事業は、①公有化を実施した史跡浪岡城跡新館地区を対象に史跡の保護盛土を行うこと、②法面の保護が必要となった検校館を対象に法面保護工事を実施すること、③田浪岡町が整備を行った史跡内(内館・北館・東館・西館・検校館)で不足する案内板などのサインや史跡名称板を設置する必要があるが生じ、平成21年度から青森市が事業を継続実施した。

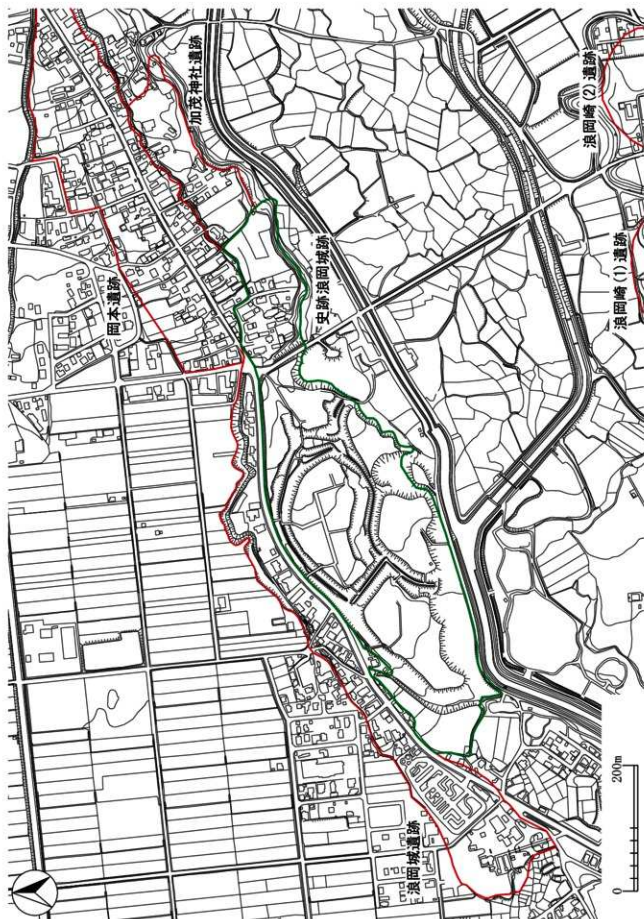
年度別の事業実績については、第3表を参照されたい。

第3節 年度別整備工事等費用

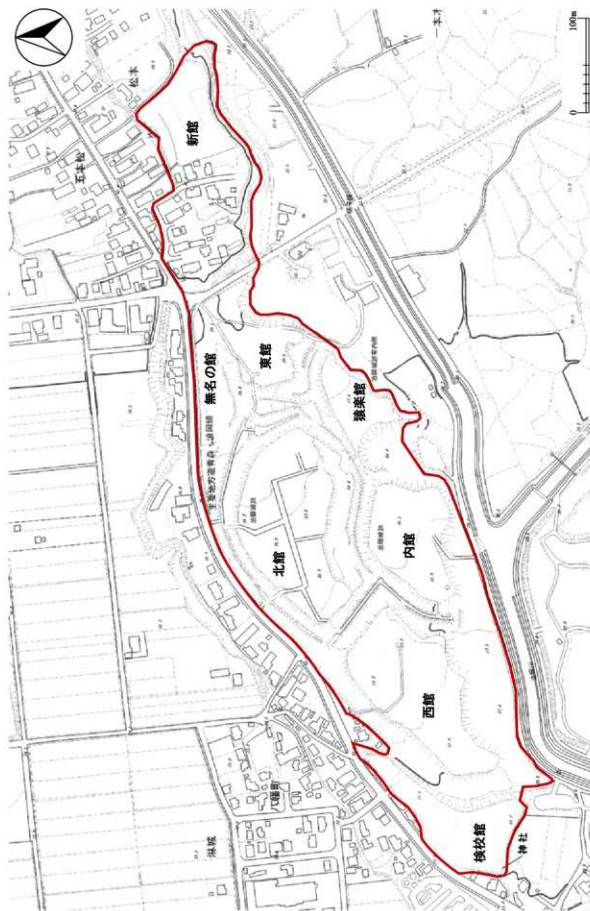
平成21年度		
環境整備工事	(有)石村興産	2,595,600円
平成22年度		
環境整備工事	大地土木(有)	3,835,650円
平成23年度		
環境整備工事	マル庄丸市組(有)	3,684,450円
平成24年度		
環境整備工事	(株)佐藤設備	2,491,650円
平成25年度		
実施設計	(株)歴史環境計画研究所	313,950円
環境整備工事	(有)三鉄建設	4,651,500円
平成26年度		
実施設計	(株)関・空間設計	2,513,160円
環境整備工事	(有)鈴木組	2,343,600円
平成27年度		
環境整備工事	(株)横山建設	4,487,400円
平成28年度		
環境整備工事	(有)小笠原重機建設	4,612,680円
平成29年度		
環境整備工事	(有)鈴木組	2,849,040円
平成30年度		
環境整備工事	大地土木(有)	2,620,522円
令和元年度		
環境整備工事	(株)奈良岡建設	3,892,896円
令和2年度		
環境整備工事	(株)はせ川組建設	3,887,001円
令和3年度		
環境整備工事	(有)スタンドアップ	1,283,269円

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計
【対象地区】	【桜枝館】	【新館】	【新館】	【新館】	【史跡内】	【史跡内】	【史跡内】	【新館】	【新館】	【新館】	【新館】	【新館】	【新館】	
内容	南側北面 保護工事	盛土保護 工事	盛土保護 工事	盛土保護 工事	【史跡内】 館(曲輪) 名称板・ 園路サイ ン等設置 15基	【史跡内】 史跡名称 板1基 案内板設 置2基	【史跡内】 誘導標識 設置3基 【新館】 盛土保護 工事	【新館】 館(曲輪) 名称板 設置1基 盛土保護 工事	【新館】 盛土保護 工事	【新館】 盛土保護 工事	【新館】 盛土保護 工事	【新館】 盛土保護 工事	【新館】 案内板 設置1基 盛土保護 工事	
環境整備 工事等 (㎡)	295	1,300	2,010	1,154			935	903	1,583	1,349	1,704	1,541	350	13,124
事業費(千円)	2,640	3,869	3,708	2,514	4,981	4,888	4,500	4,638	2,876	2,628	3,906	3,906	2,026	47,080
経費支出金(千円)	1,320	1,934	1,854	1,257	2,490	2,444	2,250	2,319	1,438	1,314	1,953	1,953	1,013	23,539
専文支出(千円)	126	123	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	249
地方債(千円)	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000	1,100	1,700	1,700	900	6,400
一般財源(千円)	1,194	1,812	1,854	1,257	2,491	2,444	2,250	2,319	438	214	253	253	113	16,892

表3 浪岡城跡年度別事業費実績表



第3図 史跡浪岡城跡及び周辺の遺跡



第4図 史跡沿河城跡館(遺構)配置図

第Ⅱ章 史跡整備の設計・施工内容

第1節 本報告以前の施工内容

浪岡城跡の環境整備については、昭和59年度に策定された「史跡浪岡城跡環境整備基本構想」に基づき、遺跡の保存及び活用を図ることを基本方針としている。旧浪岡町の当初の環境整備計画では、新館地区を除く7つの館を整備対象区域とし、発掘調査を実施した北館・内館のほか堀跡及び通路が推定される部分について復元的整備を実施し、他の館については、現状のまま保存・保護を主眼とした管理を行うという計画となっている。

1. 昭和62・63年度（環境整備報告書Ⅰ）

昭和62年度は、史跡指定地の見直し・史跡境界の確定作業を実施。史跡指定地面積136,123㎡（公有地114,820㎡）であることを確認。

昭和63年度は、北館整備時の工事用仮設道路設置予定地の事前発掘調査を実施。調査成果により、仮設道路設置予定箇所を変更することに決定。

※浪岡町教育委員会1989『史跡浪岡城跡環境整備報告書Ⅰ』所収

2. 平成元・2年度（環境整備報告書Ⅱ）

平成元・2年度は、北館の中土塁の復元工事を実施。その他、平成2年度は、北館の北側3地点と南側1地点の発掘調査を実施し、中土塁の有無・規模等を把握

した。発掘調査成果をそのまま整備に反映している。

※浪岡町教育委員会1991『史跡浪岡城跡環境整備報告書Ⅱ』所収

3. 平成3～9年度（環境整備報告書Ⅲ）

平成3年度は、現市道浅井野脇線（当時主要地方道青森浪岡線）沿いの無名の館の保護工事と北館南側及び北館－内館－猿楽館間の堀跡、西館東側の発掘調査を実施。

平成4年度は、北館と猿楽館間の中土塁の復元工事、無名の館の張芝工事と西館の発掘調査を実施。

平成5年度は、内館の保護盛土・整地及び張芝工事と内館－西館間の堀跡の発掘調査を実施。

平成6年度は、内館－西館間の中土塁復元、内館西側斜面盛土復元、内館平場西側の修景整備を実施。

平成7年度は、歴史的通路と復元橋の設置及び園路並びに園路橋の設置を実施。

平成8年度は、北館の整備（園路、園路橋、遺構の平面及び柱表示、井桁の復元設置、屋敷割の区画について盛土及び板扉での表示、遺構全体模型の設置）、並びに東館の整備（植栽）を実施。

平成9年度は、ガイダンス施設の建設、史跡名称板・説明（解説）板の設置、ガイダンス施設周囲の植栽整備を実施。

※浪岡町教育委員会2005『史跡浪岡城跡環境整備報告書Ⅲ』所収

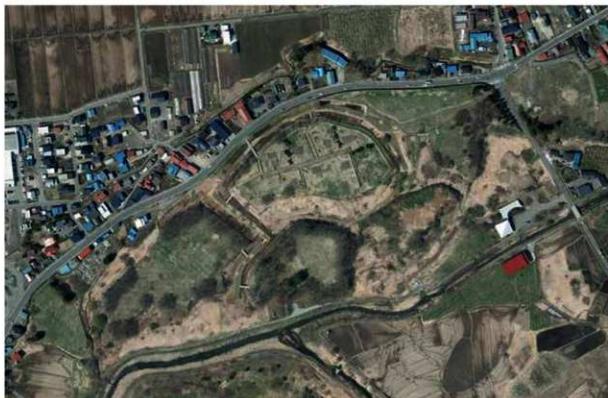
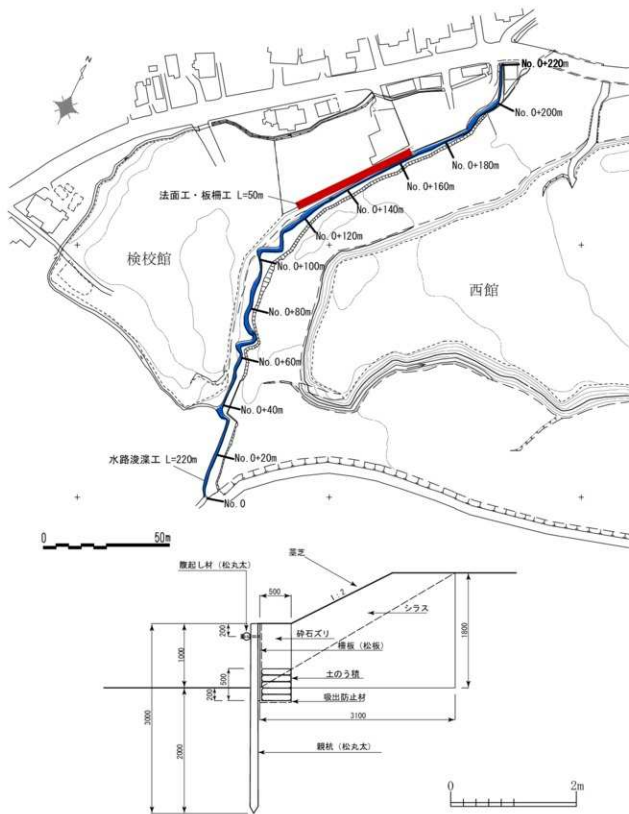


写真1 浪岡城跡空中写真（平成29年度撮影）

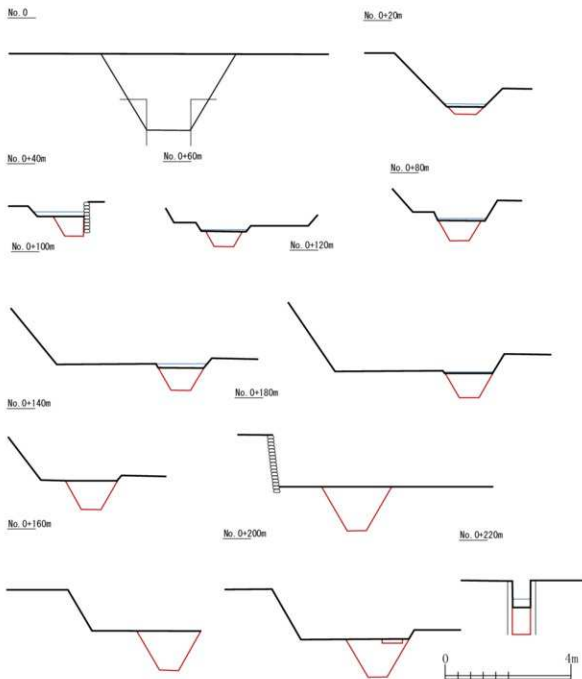
第2節 平成21～令和3年度の施工内容

1. 平成21年度

平成21年度は、検校館南側の水路220mを対象に浚渫工と、崩落の危険性がある法面50mを対象に法面成形と板柵設置工を実施した。



第5図 平成21年度工事設計図



第6図 平成21年度工事発深工出来形断面図



法面工・板柵工着工前 (SW→)



法面工・板柵工完成 (SW→)

写真2 平成21年度工事写真①



板柵設置完了状況 (E→)



板柵工・土のう積作業状況 (ENE→)



板柵工・砕石ズリ埋戻し作業状況 (NW→)



法面工・藁芝設置作業状況 (W→)



浚渫工No.0地点施工前 (S→)



浚渫工No.0地点完成 (S→)



浚渫工No.0+200m地点施工前 (W→)



浚渫工No.0+200m地点完成 (W→)

2. 平成 22 年度

平成 22 年度は、公有化が終了した新館地区の保護盛土工事を実施した。

当初の設計から、工事の搬入口の経路を変更し、事業促進のため、保護盛土を増工し、付帯する他の工事の数量も変更した。

保護盛土(黒土・粘性土・砂)当初 1,270㎡→1,295㎡

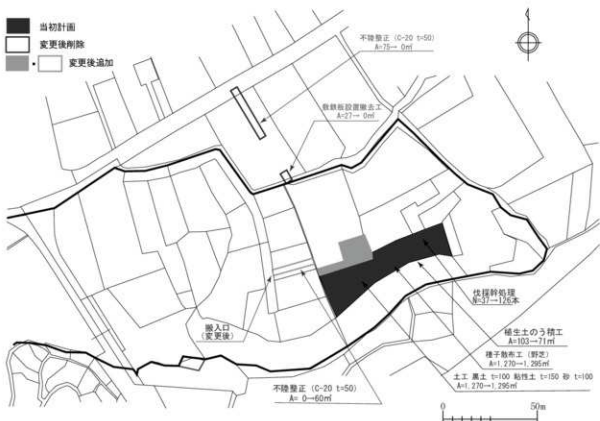
植生土のう積工 当初 103㎡→71㎡

種子散布工 当初 1,270㎡→1,295㎡

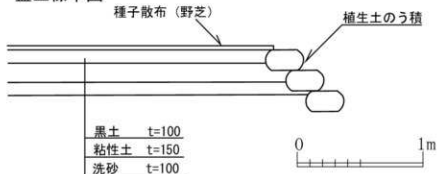
伐採幹処理 当初 37本→126本

不陸整正 当初 75㎡→60㎡

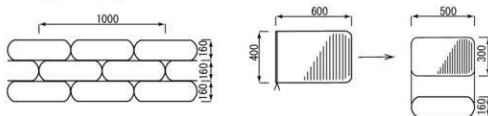
敷鉄板設置撤去工 当初 27㎡→0㎡



盛土標準図



植生土のう



第7図 平成22年度工事設計図



保護盛土着工前 (W→)



保護盛土完成 (W→)



保護盛土(砂)敷き均し作業状況 (E→)



保護盛土(粘性土)敷き均し作業状況 (W→)



保護盛土(黒土)敷き均し作業状況 (W→)



種子散布作業状況 (W→)



法面工・植生土のう積作業状況 (W→)



付帯工・伐採幹切断作業状況 (E→)

3. 平成23年度

平成23年度は、前年度に引き続き公有化が終了した新館地区の保護盛土工事を実施した。

当初の設計から、事業促進のため、保護盛土を増工し、付帯する他の工事の数量も変更した。

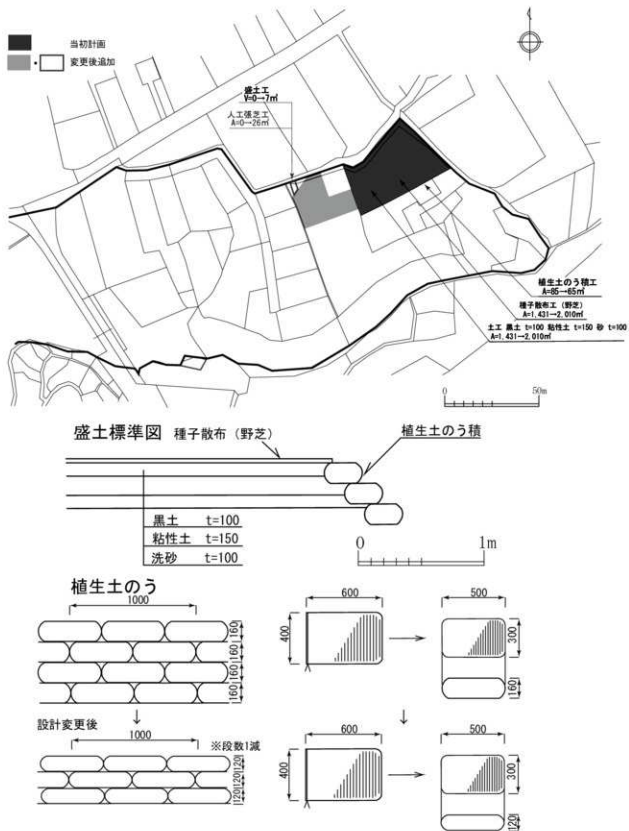
保護盛土(黒土・粘性土・砂)当初1,431㎡→2,010㎡

植生土のう積工 当初85㎡→65㎡(土のう規格変更)

種子散布工 当初1,431㎡→2,010㎡

盛土工 当初0㎡→7㎡

人工張芝工 当初0㎡→26㎡



第8図 平成23年度工事設計図



保護盛土着工前 (S→)



保護盛土完成 (S→)



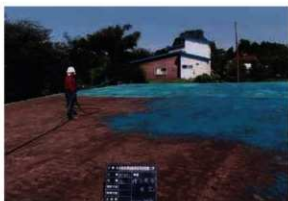
保護盛土(砂)敷き均し作業状況 (S→)



保護盛土(粘性土)転圧作業状況 (S→)



保護盛土(黒土)敷き均し作業状況 (E→)



種子散布作業状況 (W→)



法面工・植生土のう積完成 (S→)



人工張芝工完成 (N→)

4. 平成 24 年度

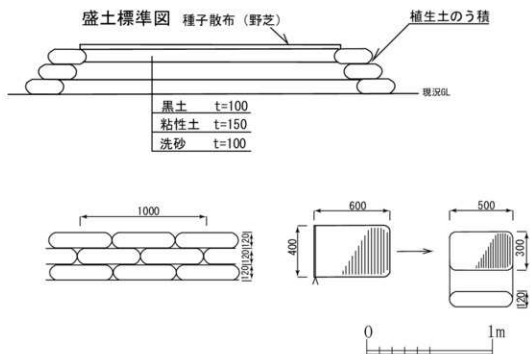
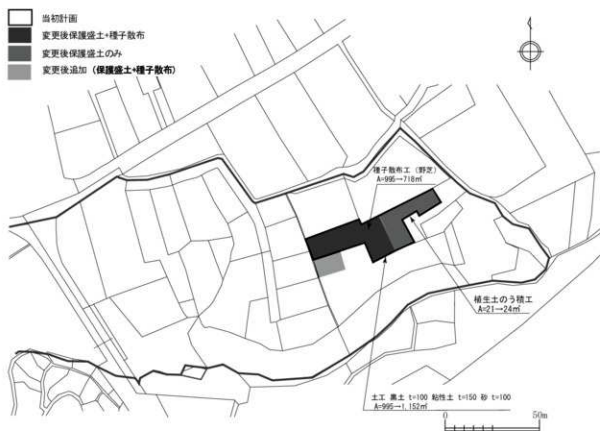
平成 24 年度は、前年度に引き続き公有化が終了した新館地区の保護盛土工事を実施した。

当初の設計から、事業促進のため、保護盛土を増工し、付帯する他の工事の数量も変更した。

保護盛土(黒土・粘性土・砂)当初995㎡→1,152㎡

植生土のう積工 当初 21 ㎡→ 24 ㎡

種子散布工 当初 995 ㎡→ 718 ㎡



第9図 平成24年度工事設計図



保護盛土着工前 (W→)



保護盛土完成 (W→)



保護盛土(砂)敷き均し作業状況 (W→)



保護盛土(粘性土)敷き均し作業状況 (W→)



保護盛土(黒土)転圧作業状況 (W→)



種子散布作業状況 (NE→)



法面工・植生土のう検品作業状況



法面工・植生土のう積作業状況 (W→)

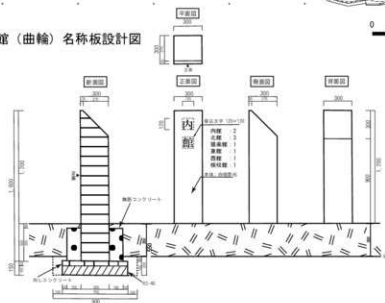
5. 平成 25 年度

平成 25 年度は、供用済の史跡を対象に利用者の利便性の向上を図るため、館(曲輪)名称板 9 基(内館: 2、北館: 3、猿楽館: 1、東館: 1、西館: 1、桧校館: 1)、園路表示板 6 基(内館: 1、北館: 2、西館: 1、順路: 2)を設置する工事を実施した。

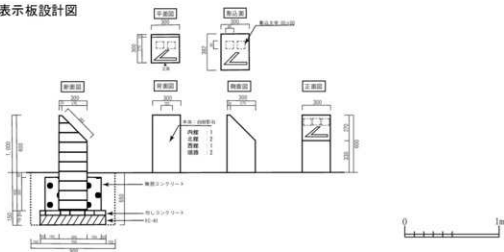
館(曲輪)名称板・園路表示板設置箇所



館(曲輪)名称板設計図



園路表示板設計図



第10図 平成25年度工事設計図



館（曲輪）名称板（内館1）着工前（E→）



館（曲輪）名称板（内館1）完成（E→）



館（曲輪）名称板（北館1）着工前（W→）



館（曲輪）名称板（北館1）完成（W→）



館（曲輪）名称板（猿楽館）着工前（S→）



館（曲輪）名称板（猿楽館）完成（S→）



館（曲輪）名称板（東館）着工前（S→）



館（曲輪）名称板（東館）完成（S→）



館（曲輪）名称板（西館）着工前（S→）



館（曲輪）名称板（西館）完成（S→）



館（曲輪）名称板（検校館）着工前（N→）



館（曲輪）名称板（検校館）完成（N→）



館（曲輪）名称板（西館）掘削作業状況（W→）



館（曲輪）名称板（検校館）基礎碎石敷き均し作業状況（S→）



館（曲輪）名称板（内館2）均しコンクリート打設作業状況



館（曲輪）名称板（東館）設置作業状況（SE→）



園路表示板（内館）完成（E→）



園路表示板（北館2）完成（E→）



園路表示板（西館）完成（E→）



園路表示板（順路1）完成（S→）



園路表示板（北館1）掘削作業状況（S→）



園路表示板（内館）基礎砕石敷き均し作業状況（S→）



園路表示板（北館2）均しコンクリート打設作業状況

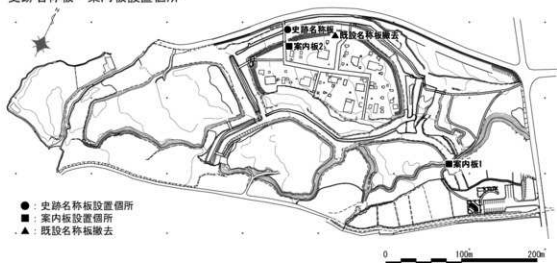


園路表示板（内館）設置作業状況（E→）

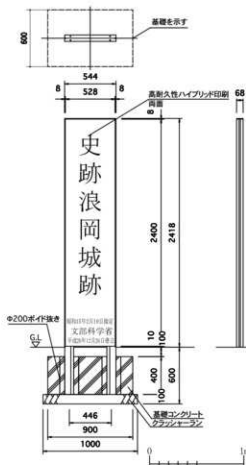
6. 平成26年度

平成26年度は、前年度に引き続き供用済の史跡を対象に、史跡名称板1基、案内板2基を設置する工事を実施した。旧浪岡町の時点で北館に設置されたトタン製の史跡名称板は、木枠の腐食が進んだことから、撤去・処分した。

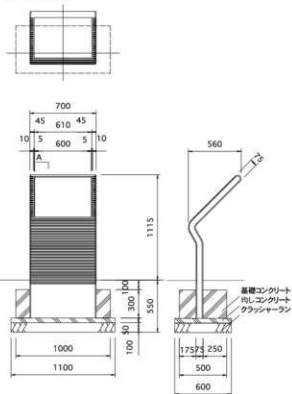
史跡名称板・案内板設置箇所



史跡名称板設計図



案内板設計図



第11図 平成26年度工事設計図



史跡名称板着工前 (W→)



史跡名称板完成 (WS→)



史跡名称板掘削作業状況 (W→)



史跡名称板砕石敷き均し作業状況 (S→)



史跡名称板基礎コンクリート打設作業状況 (S→)



史跡名称板基礎コンクリート測定状況 (W→)



史跡名称板設置作業状況 (WS→)



既設名称板撤去作業状況 (E→)



案内板1(猿楽館)着工前(S→)



案内板1(猿楽館)完成(S→)



案内板2(北館)着工前(W→)



案内板2(北館)完成(W→)



案内板1(猿楽館)掘削作業状況(S→)



案内板2(北館)掘削作業状況(W→)



案内板2(北館)モルタル充填作業状況(W→)



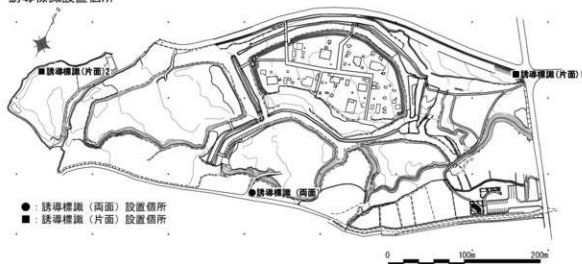
案内板1(猿楽館)埋戻し作業状況(E→)

7. 平成 27 年度

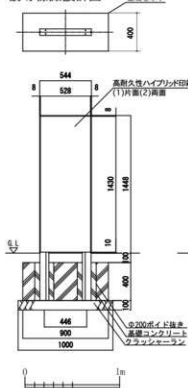
平成 27 年度は、前年度に引き続き供用済の史跡を対象に利用者の利便性の向上を図るため、誘導標識を 3 基（両面：1 基、片面：2 基）を設置した。

また、公有化が終了した新館地区の保護盛土工事を実施した。当初設計では 900 m²の施工であったが、出来形として 935 m²の保護盛土が完成した。

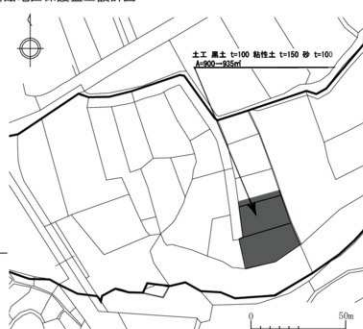
誘導標識設置箇所



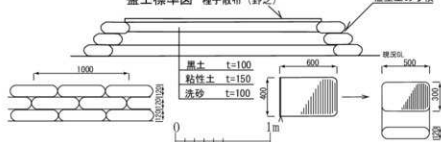
誘導標識設計図



新館地区保護盛土設計図



盛土標準図



第12図 平成27年度工事設計図



誘導標識（両面）着工前（S→）



誘導標識（両面）完成（S→）



誘導標識（片面1）着工前（N→）



誘導標識（片面1）完成（N→）



誘導標識（片面2）掘削作業状況（N→）



誘導標識（片面1）砕石敷き均し作業状況（N→）



誘導標識（両面）基礎型枠設置作業状況（N→）



誘導標識（片面2）設置作業状況（NE→）



保護盛土着工前 (SW→)



保護盛土完成 (SW→)



保護盛土(砂)搬入状況 (S→)



保護盛土(砂)転圧作業状況 (SW→)



保護盛土(粘性土)敷き均し作業状況 (N→)



保護盛土(黒土)敷き均し作業状況 (NW→)



法面工・植生土のう積作業状況 (E→)



種子散布作業状況 (NE→)

8. 平成 28 年度

平成 28 年度は、公有化が終了した新館地区を対象に、館（曲輪）名称板 1 基の設置と、保護盛土を実施した。

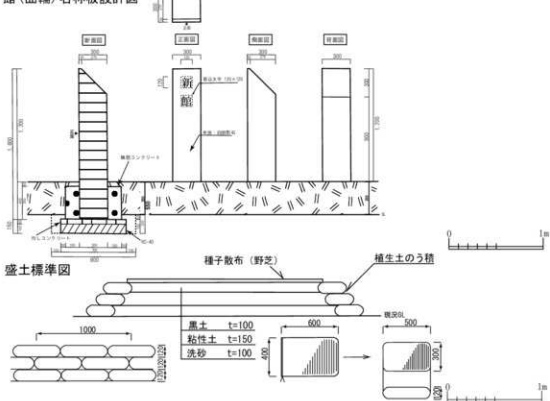
館（曲輪）名称板については、平成 25 年度に設置した他の館（曲輪）名称板と同一規格のものとした。

保護盛土については、設計 900 m²に対し、出来形で 903.59 m²の施工となった。

また、対象地内に残存していた廃棄物について撤去工を実施した。



館（曲輪）名称板設計図



第13図 平成28年度工事設計図



館(曲輪)名称板完成 (N→)



館(曲輪)名称板基礎砕石敷き均し作業状況 (S→)



館(曲輪)名称板均しコンクリート打設作業状況 (NE→)



館(曲輪)名称板基礎コンクリート測定状況 (N→)



館(曲輪)名称板据え付け作業状況 (N→)



廃棄物集積状況 (SW→)



保護盛土着工前 (N→)



保護盛土完成 (N→)



保護盛土着工前 (N→)



保護盛土完成 (N→)



保護盛土 (砂) 敷き均し作業状況 (W→)



保護盛土 (粘性土) 敷き均し作業状況 (SW→)



保護盛土 (粘性土) 転圧作業状況 (NW→)



保護盛土 (黒土) 敷き均し作業状況 (W→)



法面工・植生土のう積作業状況 (N→)



種子散布作業状況 (N→)

9. 平成 29 年度

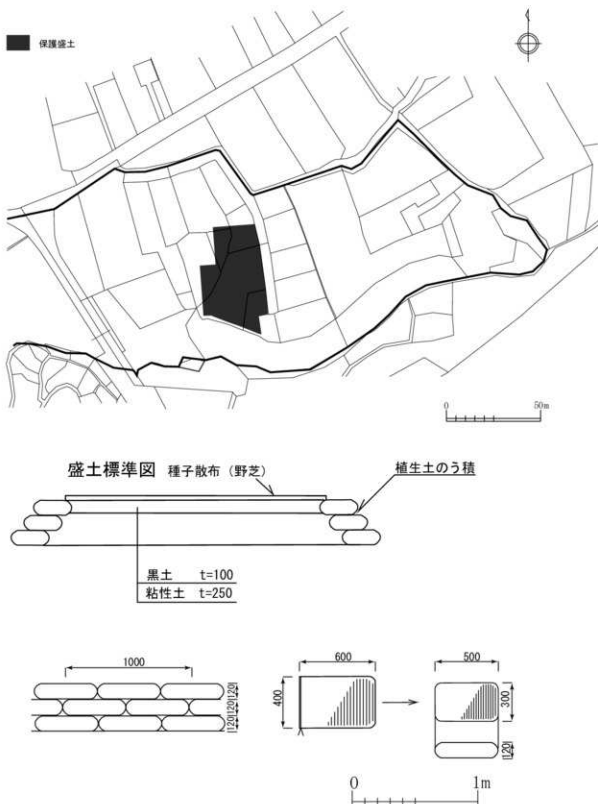
平成 29 年度は、公有化が終了した新館地区を対象に保護盛土を実施した。

併行して整備を実施していた国史跡高屋敷館遺跡に関し、国土交通省が整備を計画した簡易パーキング建設に係る協議があり、その協議の中で、国土交通省が工事を実施している工区の発生土（粘性土）の提供

の打診があり、検討した結果、浪岡城跡の保護盛土で利用することにした。

平成 29 年度以降の保護盛土については、設計を変更し、黒土直下は提供を受けた粘性土を厚さ 25cm で盛土した。

設計 1,560 m² に対し、出来形で 1,583 m² の施工となった。



第14図 平成29年度工事設計図



保護盛土着工前1 (E→)



保護盛土完成1 (E→)



保護盛土着工前2 (ENE→)



保護盛土完成2 (ENE→)



準備工・草刈作業状況 (ENE→)



保護盛土(粘性土)搬入状況 (W→)



保護盛土(粘性土)敷き均し作業状況 (E→)



保護盛土(粘性土)厚さ確認作業状況



保護盛土（黒土）搬入状況（W→）



保護盛土（黒土）敷き均し作業状況（SE→）



保護盛土（黒土）転圧作業状況（E→）



保護盛土（黒土）厚さ確認作業状況



法面工・植生土のう積作業状況（S→）



法面工・植生土のう積作業状況（N→）



法面工・植生土の厚さ確認作業状況

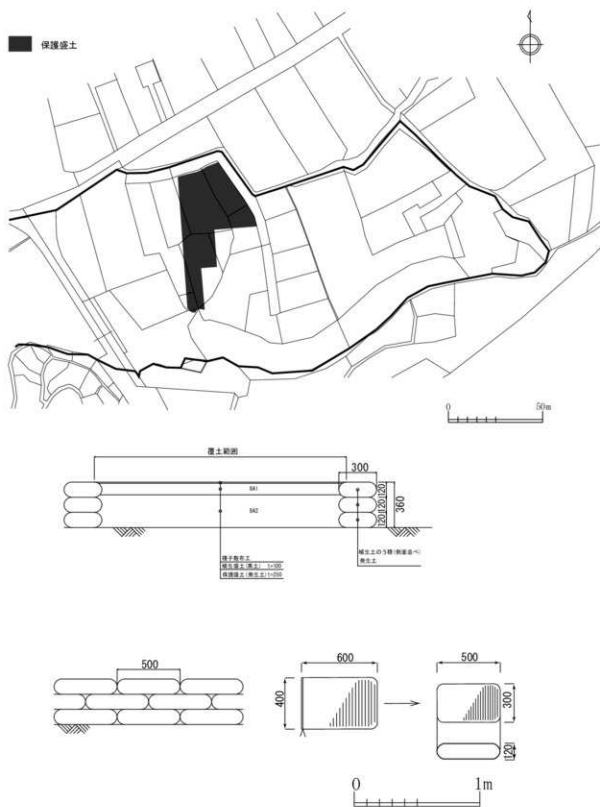


種子散布作業状況（E→）

10. 平成30年度

平成30年度は、前年度に引き続き新館地区の保護盛土工事を実施した。

設計1,310㎡に対し、出来形で1,349.5㎡の施工となった。



第15図 平成30年度工事設計図



保護盛土着工前 (SE→)



保護盛土完成 (SE→)



保護盛土（粘性土）敷き均し作業状況 (N→)



保護盛土（粘性土）転圧作業状況 (N→)



保護盛土（黒土）敷き均し作業状況 (E→)



保護盛土（黒土）転圧作業状況 (N→)



法面工・植生土のう積作業状況 (W→)



種子散布作業状況 (SE→)



保護盛土着工前 (NE→)



保護盛土完成 (NE→)



保護盛土(粘性土)敷き均し作業状況 (S→)



保護盛土(粘性土)転圧作業状況 (E→)



保護盛土(黒土)敷き均し作業状況 (E→)



保護盛土(黒土)転圧作業状況 (SE→)



法面工・植生土のう積作業状況 (E→)



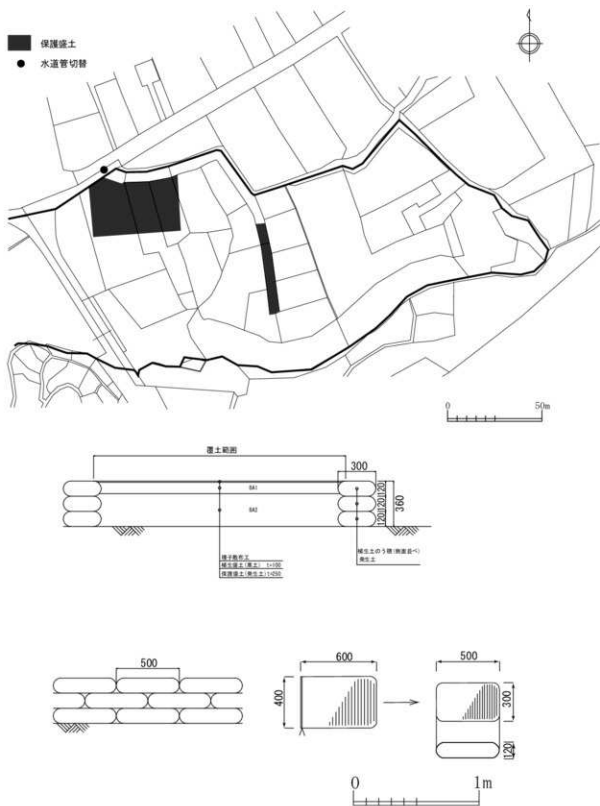
種子散布作業状況 (NW→)

12. 令和2年度

令和2年度は、前年度に引き続き新館地区の保護盛土工事を実施した。また、これまで道路として利用されていた部分については、新館地区へ車でアクセスする利用者のため、一部を道路として残し、側溝蓋

176枚・消火栓1基・木製の道路照明1基（地上面のみ伐採）を除去・処分した。

保護盛土は、設計1,490㎡に対し、出来形で1,541.5㎡施工となった。



第17図 令和2年度工事設計図



保護盛土着工前 (S→)



保護盛土完成 (S→)



保護盛土〔旧道路部分〕着工前 (N→)



保護盛土〔旧道路部分〕完成 (N→)



保護盛土(粘性土)敷き均し作業状況 (NE→)



保護盛土(黒土)敷き均し作業状況 (NE→)



法面工・植生土のう積作業状況 (E→)



種子散布作業状況 (NE→)

13. 令和3年度

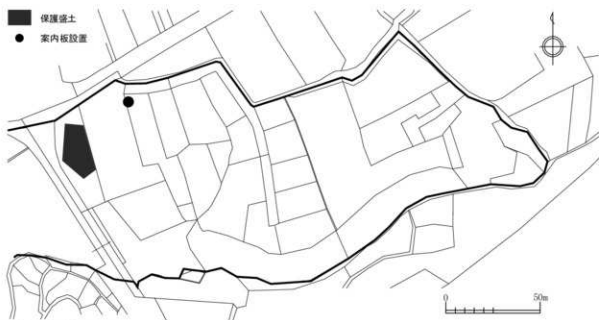
令和3年度は、新館地区の保護盛土と案内板1基の設置を実施した。

保護盛土は、これまで保護盛土を実施した地点と

既存の斜面にすり付けるように高さを調整し、種子吹付を実施した（設計：350 m³、出来形：350.5 m³）。

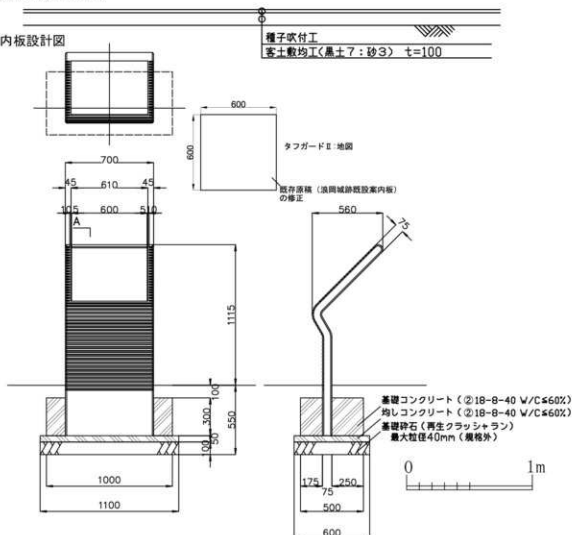
案内板は、平成26年度に供用済の史跡内に設置したものと同一のデザインのものを採用した。

- 保護盛土
- 案内板設置

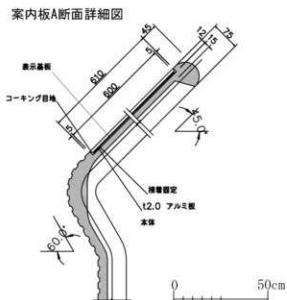


保護盛土標準断面図

案内板設置図



第18図 令和3年度工事設計図①

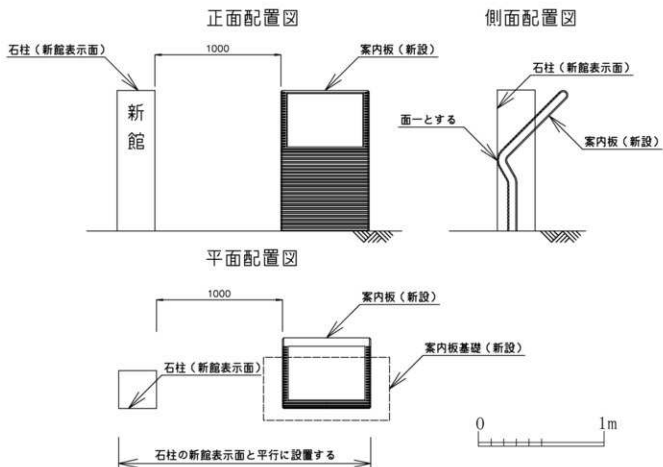


史跡案内板 メモリアル UC-782200F

本体 : GRC成形品、合成樹脂石調塗装、背面:合成樹脂塗装(グレー)

表示基板: t1.5 600×600 アルミ板 タフガード: 地図 既存原稿修正

案内板設置要領図





案内板着工前 (N→)



案内板完成 (N→)



案内板掘削作業状況 (N→)



案内板基礎砕石転圧作業状況 (NE→)



案内板基礎砕石測定状況 (N→)



案内板均しコンクリート測定状況 (N→)



案内板設置作業状況 (NW→)



案内板基礎コンクリート打設作業状況 (NE→)



保護盛土着工前 (SW→)



保護盛土完成 (SW→)



保護盛土敷鉄板設置状況 (E→)



保護盛土(黒土)敷き均し作業状況 (N→)



保護盛土(黒土)厚さ確認作業状況②地点 (N→)



保護盛土(黒土)厚さ確認作業状況④地点 (W→)



種子散布作業状況 (N→)



種子散布作業完了状況 (N→)

報告書抄録

ふりがな	くにしせきなみおかじょうあとかんきょうせい(国史跡浪岡城跡環境整備報告書IV)							
書名	国史跡浪岡城跡環境整備報告書IV							
副書名								
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第129集							
編著者名	木村淳一							
編集機関	青森市教育委員会							
所在地	〒030-0801 青森県青森市新町一丁目3番7号 青森市役所駅前庁舎 TEL 017-718-1392							
発行年月日	西暦 2021年12月28日							
ふりがな 所収道跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 道跡番号		世界測地系 (JGD2000) 北緯 東経		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
なみおかじょうあと 浪岡城跡	浪岡市青森市浪岡大字五本松字松本	02201	347	40° 43' 09"	140° 36' 29"			史跡整備
所収道跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
浪岡城跡	城館	中世						
要約	国史跡浪岡城跡の平成21年度から令和3年度までの環境整備工事について、事業概要・設計・施工内容を所収した。							

引用・参考文献

- 青森市教育委員会 2009 『市内遺跡発掘調査報告書17』青森市埋蔵文化財調査報告書第99集
- 浪岡町 2004 『浪岡町史』第2巻
- 浪岡城跡環境整備委員会・浪岡町・浪岡町教育委員会 1984 『史跡浪岡城跡環境整備基本構想』
- 浪岡町教育委員会 1989 『史跡浪岡城跡環境整備報告書Ⅰ』
- 浪岡町教育委員会 1991 『史跡浪岡城跡環境整備報告書Ⅱ』
- 浪岡町教育委員会 2001 『平成12年度浪岡町文化財紀要Ⅰ』
- 浪岡町教育委員会 2002 『平成13年度浪岡町文化財紀要Ⅱ』
- 浪岡町教育委員会 2003 『平成14年度浪岡町文化財紀要Ⅲ』
- 浪岡町教育委員会 2005 『史跡浪岡城跡環境整備報告書Ⅲ』

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1962	『三内遺跡発掘調査報告書』	青森市埋蔵文化財調査報告書	第 56 集	2003	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	
＊	2	『関戸遺跡発掘調査報告書』		＊	第 58 集	2003	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
＊	3	『八木遺跡発掘調査報告書』		＊	第 61 集	2003	『関戸(3)遺跡発掘調査報告書』
＊	4	『三内丸山遺跡発掘調査報告書』		＊	第 68 集	2003	『松野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	5	『野木遺跡発掘調査報告書』		＊	第 69 集	2003	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	6	『八木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』		＊	第 70 集	2003	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	7	『八木遺跡発掘調査報告書Ⅲ』		＊	第 71 集	2004	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
＊	8	『関戸遺跡発掘調査報告書Ⅱ』		＊	第 72 集	2004	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
	1979	『関戸遺跡発掘調査報告書Ⅲ』		＊	第 73 集	2004	『松野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
	1983	『関戸遺跡発掘調査報告書Ⅳ』		＊	第 74 集	2004	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
青森市の埋蔵文化財	1983	『山形野遺跡』		＊	第 75 集	2004	『江道遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
	1986	『北森遺跡発掘調査報告書』		＊	第 76 集	2005	『空山(3)遺跡発掘調査報告書』
	1986	『田代木野遺跡発掘調査報告書』		＊	第 77 集	2005	『赤坂遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
	1987	『関内丸山遺跡発掘調査報告書』		＊	第 78 集	2005	『三内丸山(6)遺跡発掘調査報告書』
	1988	『三内丸山(1)遺跡発掘調査報告書』		＊	第 79 集	2005	『金子内(5)(2)遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書				＊	第 81 集	2005	『石江遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	第 16 集	1991	『山代(1)遺跡発掘調査報告書』	＊	第 82 集	2006	『金子内(5)(3)遺跡発掘調査報告書』
＊	第 17 集	1992	『榎城文化財出土遺物調査報告書』	＊	第 83 集	2006	『金子内(5)(4)遺跡発掘調査報告書』
＊	第 18 集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』	＊	第 84 集	2006	『松野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
＊	第 19 集	1993	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』	＊	第 85 集	2006	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
＊	第 20 集	1993	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 86 集	2006	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
＊	第 21 集	1994	『小内遺跡詳細発掘調査報告書Ⅰ』	＊	第 87 集	2006	『松野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
＊	第 22 集	1994	『三内丸山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 88 集	2006	『空山(6)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	第 23 集	1994	『三内丸山(2)・小内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 89 集	2006	『松野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
＊	第 24 集	1995	『関内遺跡・関内(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 90 集	2007	『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』
＊	第 25 集	1995	『小内遺跡詳細発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 91 集	2007	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
＊	第 26 集	1995	『関家(2)遺跡発掘調査報告書』	＊	第 92 集	2007	『松野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
＊	第 27 集	1996	『関家(3)遺跡発掘調査報告書』	＊	第 93 集	2007	『金子内(5)(5)遺跡発掘調査報告書』
＊	第 28 集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	＊	第 94 集	2007	『関野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	第 29 集	1996	『小内遺跡詳細発掘調査報告書Ⅲ』	＊	第 95 集	2007	『関野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
＊	第 30 集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	＊	第 96 集	2008	『野尻(4)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	第 31 集	1997	『小内遺跡詳細発掘調査報告書Ⅳ』	＊	第 96 集	2008	『松野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
＊	第 32 集	1997	『関家(4)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 97 集	2008	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
＊	第 33 集	1997	『松野遺跡詳細発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 98 集	2008	『関野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
＊	第 34 集	1997	『月見野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 99 集	2008	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
＊	第 35 集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』	＊	第 100 集	2008	『阿部(1)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	第 36 集	1998	『関家(5)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 101 集	2008	『八木野(1)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	第 37 集	1998	『松野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』	＊	第 102 集	2008	『松野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
＊	第 38 集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 103 集	2010	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
＊	第 39 集	1998	『小内遺跡詳細発掘調査報告書Ⅳ』	＊	第 104 集	2010	『北森遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	第 40 集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』	＊	第 105 集	2010	『野尻(5)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	第 41 集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	＊	第 106 集	2010	『石江遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
＊	第 42 集	1998	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅵ』	＊	第 107 集	2011	『江道遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
＊	第 43 集	1999	『小内遺跡詳細発掘調査報告書Ⅳ』	＊	第 108 集	2011	『江道遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
＊	第 44 集	1999	『野尻(3)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 109 集	2011	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
＊	第 45 集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』	＊	第 110 集	2012	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
＊	第 46 集	1999	『松野野・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 111 集	2012	『野尻(6)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	第 47 集	1999	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅶ』	＊	第 112 集	2012	『石江遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
＊	第 48 集	2000	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅷ』	＊	第 113 集	2013	『石江遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
＊	第 49 集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』	＊	第 114 集	2013	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
＊	第 50 集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』	＊	第 115 集	2013	『八木野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	第 51 集	2000	『関家(1)・遺跡(6)(3)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 116 集	2014	『石江遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
＊	第 52 集	2000	『八木野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	＊	第 117 集	2014	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
＊	第 53 集	2000	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』	＊	第 118 集	2015	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
＊	第 54 集	2001	『松野遺跡発掘調査報告書Ⅷ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	＊	第 119 集	2016	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅹ』
＊	第 55 集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』	＊	第 120 集	2017	『田代遺跡・中道遺跡・赤平福山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	第 56 集	2001	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅸ』	＊	第 121 集	2017	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅺ』
＊	第 57 集	2001	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅹ』	＊	第 122 集	2018	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅻ』
＊	第 58 集	2001	『八木野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	＊	第 123 集	2018	『野尻(4)遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
＊	第 59 集	2001	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅸ』	＊	第 124 集	2019	『関野野高野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	第 60 集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』	＊	第 125 集	2019	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅻ』
＊	第 61 集	2002	『八木野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅳ』	＊	第 126 集	2020	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅼ』
＊	第 62 集	2002	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅺ』	＊	第 127 集	2021	『福山(16・G)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
＊	第 63 集	2002	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅻ』	＊	第 128 集	2021	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅽ』
＊	第 64 集	2002	『小内遺跡発掘調査報告書Ⅹ』	＊	第 129 集	2021	『関野野高野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
＊	第 65 集	2003	『宮野山代(4)～(7)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』				

青森市埋蔵文化財調査報告書第129集

国史跡 岡城跡 環境整備報告書Ⅳ

発行年月日 2021年(令和3年)12月28日
 編集 青森市教育委員会
 〒030-0801 青森県青森市新町一丁目3番7号
 青森市役所駅前庁舎

TEL 017-718-1392

印刷 青森オフセット印刷株式会社
 〒030-0802 青森県青森市本町二丁目11番16号
 TEL 017-775-1431

